

ワイズスクラップル

# 中国で、2020年までに10の 新たな電動車を追加…トヨタ

2019年より現地生産予定のカローラPHV、レビンPHV

トヨタ自動車は、2019年に「カローラ」および「レビン」のプラグインハイブリッド車、また2020年に「C-HR/IZOA」ベースの電気自動車を、それぞれ中国市場に導入する。

トヨタ自動車は2020年までに10車種の電動車を新たに中国市場に導入する計画。

電動車のコア技術であるバッテリー、インバーター、駆動系ユニット等中国における現地生産化を進めることにより、現地に根差した車両電動化をさらに加速していく、という。

「北京モーターショー」において、「カローラPHV」および「レビンPHV」を初披露。

PHVのうちEV走行距離は50km以上を想定。

トヨタ初の海外生産となるPHVとして、2019年より中国での現地生産を開始する。

トヨタは現地に根差した車両電動化を考え、2015年からハイブリッド用トランスアクスルを中国の「トヨタ自動車（常熟）部品有限公司」で生産を開始するなど、電動車用主要コンポーネントの現地生産



カローラPHV

体制を進めてきた。

今後さらに、「新中源トヨタエナジーシステム有限会社」及び「科力美オートモーティブバッテリー有限会社」ではニッケル水素電池モジュールの生産能力を2020年に22万基まで増強する。

またトヨタ自動車は「クルマの電動化」の加速に向け、中国現地での「電動車パートレーン」の開発・生産体制を強化します。

開発面では中国の研究開発拠点である『トヨタ自動車研究開発センター（中国）有限会社』内にて「電動車のための電池パックを評価する電池試験棟」が2020年に稼働します。生産面においても2020年のEV導入を念頭に、順次現地での生産体制を整えます。

トヨタは昨年、現地生産のハイブリッド・ユニットを搭載した「カローラ ハイブリッド」および「レビン ハイブリッド」を含むハイブリッド車を約14万台販売、累計で約35万台を販売しており、今後

もさらにそのラインナップを拡大する予定です。

燃料電池車については、昨年より「MIRAI」を利用した3年間の実証実験を開始しているほか、バスなど商用車までフィージビリティスタディの対象を拡げ、中国でのFC（燃料電池）技術の応用可能性を探っています。

トヨタの専務役員で、中国本部長である小林一弘氏は、「世界で最も電動化が進むこの中国で、環境戦略を全方位で、着実に、自信を持って進めていきたい」と「北京モーターショー」で語りました。



レビンPHV